

ホップの収穫作業風景（上）と実ったホップ果実（左）（写真提供：大雄村）



歴史的転作事業開始から定着・主要生産地へ（大雄村）

稲作生産調整開始の翌昭和46年、米の優良産地大雄村に転作作目として導入された「ホップ」。未知の作物への挑戦から30年、栽培農家の弛まぬ熱意と、県・村契約メーカーの支援により、国内でも有数の優良ホップ産地として定着しています。

稲作の減反政策と未知の作物への決断

栽培技術と品種改良により、国内では米の生産量がピークを迎え、本県でも生産調整による「減反」政策が実施された昭和45年、県内でも有数の米の産地である大雄村に、県より土地・気象条件の適した

転作作目として「ホップ」栽培の情報がもたらされました。ホップはクワ科の多年草で、松かさ状の実に芳香と苦味があり、ビールの香味として用いられます。

稲作に対する期待や意欲が強かった当時の農家にとって、転作奨励金が支給されたとはいえ、未知の作物への不安や施設・設備投資への多額の負担などから、栽培開始は大きな決断となりました。

しかし、稲作においても高い技術力を持っていた同地域の農家は、その勤勉さと熱意で、戦前からホップ栽培に取り組んできた福島県会津地方や山形県上山地方を参考に、次第に稲作一辺倒の農業からホップを組み合わせた複合経営へと意識を変えていきました。

昭和46年5月、宮田地区中島、田根森地区野崎の2箇所

1 cm弱の「ケバナ」と呼ばれるホップの花



50年代の急激な増反と 病害、天災との戦い

昭和50年代に入ると、秋田

でそれぞれ2haずつの育苗棚が建てられ、棒苗の植え付けにより、転作科目として初めて苗の養成が始まりました。同月、組合員数51名、棚面積13.78ha(水田面積15.71ha)を包括する「大雄村ホップ組合」が設立され、いよいよ本格的にホップ栽培に取り組んでいきます。

稲作転換促進事業により棚が完成、土壌改良費との事業費の半分は借入金でした。安定を求める農業の風潮の中、

若手耕作農家たちだからこそ成し得た挑戦でした。

県ホップ組合連絡協議会の結成に参加、組合としても栽培開始から5年目を迎え、ホップ祭り等のイベントが開催されました。53年には村の実験農場にもホップが導入され、翌54年からは田根森第2、第3支部、八柏支部、隣接する横手市の黒川支部が次々に発足し、ピクとなった62年には組合員数133、耕作面積61.79haにまで拡大し、収穫施設も6箇所へと増設されました。

村でも、基幹産業の一翼として村民全体でホップ栽培を支援する体制を構築。56年にはホップを「村の花」に制定するなど、定着に努めてきました。

しかし、農場ではホップの病気である矮化病やその他の病害が散見されるようになり、その撲滅対策は50年代後半まで続くこととなります。また、昭和56年には台風15号の影響により棚が壊滅的被害を受け、耕作面積の増加にもかかわらず、収穫数が半減した被害もありました。これらの試練に遭遇しながらも、当地では、共同防除や指導員会制度といった独自の体制により難局を乗り越えてきました。



早出(早稲)種(左)と遅出種(右)、成長が大きく違う

生産最盛期から

減反・廃作へ

全戸キンビール(株)の契約栽培となっている当地では、組合員数、面積共にピクとなった60年代前半以降、生産調整、価格引き下げが開始される一方、組合員の熱意により、専門農協「大雄ホップ農業協同組合」が誕生しました。

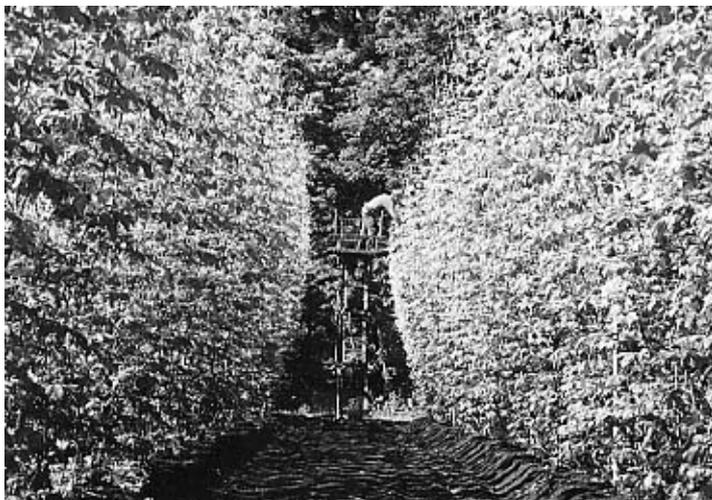
しかしながら、後継者不足による農業空洞化には歯止めがかからず、平成12年度の組合員数は79、作付面積37.89haにまで減少しています。このような厳しい環境の中で、ホップ農家では生産性向上技術の拡大に努め、管理機

等省力化のための設備の導入や、良品質ホップの安定生産に取り組んでいます。豊作となった昨年度は、単位収量では過去最大の平成元年に次ぐ10a当たり237kgを記録しました。また、国産比率が10%を割るホップにあつて、輸入品よりも高い等級を示す良品を多く生産するほか、契約メーカーの手厚い保護政策もあり、安定した収入を農家にもたらしています。

村の目指す総合的

地域農業への取り組み

大雄村ではこれまで、むらづくりの重点施策として「ハイテクグリーンビレッジ」を指針とし、大区画圃場整備事業や農地集約化等を積極的に進め、主要農産物である稲作をはじめ戦略作物等の総合的農業振興に取り組みながら、屈指の優良農業地域をさらに時代に即した形で具現化しようとしてきました。このような中で、「村の顔」にま



「ホップワーカー」を使った管理作業の様子

で定着したホップを重要科目として認識し、今後も維持・発展できるように支援することとしています。

県内の他産地である大館市・太田町と比較しても規模・収量ともに上回る大雄村のホップ棚は、村内に散在し独特の風景を作り出しています。勤勉な農業生産者に関係各機関・契約メーカーらが強力に支援し合い、特色ある農業を育成することによって、地域の田園風景を形成しているようにも見えます。